

【溺愛支配】結婚10年目の再教育
～パパとママを脱ぎ捨てる白昼。愛を刻み込まれる愛妻の白濁印～

サンプル（一部抜粋）

「...行ってらっしゃい！
気を付けて帰ってくるんだよ。」

（子供が出て行くドアの開閉音）

「.....由美。
抱きしめさせて。」

（ぎゅっとハグをする音）

「...ん？急にどうしたのって...最近こんな風に抱きしめたり出来てなかったなと思って。
子供達が居るから中々二人になれなかったし。」

（優しく髪を撫でる音）

「...ああ。名前で呼ぶのも久しぶりな気がするな。
普段はママとパパだもんな。」

「.....まだ昼間だよって？
そうだね。カーテンも窓もまだ開いたままだし、外からは人の話し声が聞こえるね。」

「ん？別に怒ってないよ。
君が昨日、会社の飲み会で酔っぱらって、上司の肩にもたれ掛かって甘えるように眠っていた事は知っているけどね。」

「...しーっ。窓、開いてるんだよ。
ほら、ご近所さんの話し声がかすかに聞こえるだろ？
声、出しちゃだめだよ。」

（じゅるじゅると乳首を舐める）

「（耳元で）乳首、気持ちいい？」

「...こっちは声が出ちゃうダメって？」

「じゃあ俺の服でも啜えてて。
声、出さないでね。」

「...これでやっと、君を汚す音を独り占めできる。
いっぱい声、聞かせてね」